

## 特別支援学校(知的グループ)美術科学習指導案

1. 題材名 「ジャコメッティと矢内原の気持ちを覗いてみよう」

2. 題材作品 アルベルト・ジャコメッティ 《ヤナイハラ I》 1960-61年  
ブロンズ H43.2cm × W29.2cm × D12.7cm 国立国際美術館蔵

3. 実施学年 特別支援学校高等部1年生

### 4. 学習指導要領との関連

2段階 内容 B鑑賞 ア(ア)

美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

### 5. 題材の概要

1. 《ヤナイハラ I》(作品)、ジャコメッティ、モデルの矢内原伊作について、説明を聞いたり、話し合ったりすることで、造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫について考える。→ワークブック
2. ジャコメッティと矢内原について知る。→映像
3. 美術館で《ヤナイハラ I》を鑑賞する。→美術館
4. まとめ。→ワークブック

### 6. 題材目標

#### ・知識及び技能

《ヤナイハラ I》の制作方法、制作過程、作られた背景などを知る。

#### ・思考力、判断力、表現力等

《ヤナイハラ I》の創造的なよさや美しさ、特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりしながら作品を理解しようとしている。

#### ・主体的に学びに取り組む態度

自分らしい考えや意見を見いだすとともに、他者とのコミュニケーションを通して、自分の見方・考え方を深めようとしている。

### 7. 準備

指導者：ワークブック、TVモニター、iPadあるいはタブレット端末、ペーパーサート

8. 授業展開(全10時間)

	学習活動	指導内容および留意点
※0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段の学校生活の中からジャコメッティ、《ヤナイハラ I》について興味関心を持つ。(気づき)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術室を中心とした校舎中にポスターを貼る。教室や図書室等内にジャコメッティ関連の掲示を行うなど、ジャコメッティについて生徒が日常的に関心を持つことができる環境づくりに努める。興味を持った生徒に適宜アドバイスをする。</li> </ul>
1、2	<p>事前学習①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークブックを通じてジャコメッティ、矢内原、《ヤナイハラ I》に興味関心を持つ。</li> <li>・ 最初に感じたことをワークブックに記入する。 【ワークブック①】</li> <li>・ ジャコメッティと矢内原についての※映像作品を見て知識を深める。</li> <li>・ 映像を見た上で再度ワークブックに取り組み、グループワークで意見の共有を行う。【ワークブック②】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークブックを使用する。</li> <li>・ 生徒たちがジャコメッティ、矢内原、《ヤナイハラ I》について興味を持つきっかけを作るような発問を心がける。</li> <li>・ 取り組みにくい生徒には例を出すなどし、イメージしやすくする。</li> <li>・ ワークブックの記述内容については生徒の気持ちを大切にす。最初と映像を見た後で変容が無くても良しとする。</li> </ul>
3、4	<p>事前学習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術館についてのマナーやルールを知る。 ※事前学習【ワークブック③】</li> <li>・ グループで役割を決め、調べた内容を他グループに伝える。 ●交通手段 ●マナー ●美術館について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術館について自分たちで iPad あるいはタブレット端末を使用して調べる。(場所、交通手段、交通費、入館料、館内での注意事項、美術館の設備など)</li> <li>・ 生徒が美術館について興味をもち、作品を積極的に鑑賞しようとする気持ちを高めるような情報提供や言葉かけを行う。</li> </ul>
5、6 7、8	<p>美術館での活動(作品鑑賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術館で《ヤナイハラ I》及び、その他の作品を鑑賞する。</li> <li>・ ワークブックに感じたことを記入する。 【ワークブック④】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 《ヤナイハラ I》の作品を中心に作品鑑賞を行う。</li> <li>・ 鑑賞はグループごとに行う。</li> <li>・ 事前学習での内容を振り返ることができるように言葉かけを行う。</li> <li>・ 美術館でのマナーやルールについて徹底する。</li> <li>・ 時間の許す限りゆっくり鑑賞するように促す。</li> </ul>
9、10	<p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術館での鑑賞及び今までの授業を通じて考えたこと、感じたことなどをグループでまとめる。 【ワークブック⑤】</li> <li>・ グループごとに発表。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入で作品について振り返る。</li> <li>・ ワークシート①と⑤を比較し変化に気づく。</li> <li>・ 作者やモデルの心情を発表するときは、ペープサートを活用。</li> </ul>

## 9. 目当て(ねらい)

- ・鑑賞活動を通じて、作品の見方や感じ方を深める。
- ・授業を通じて、作品の造形的な美しさに気づく。

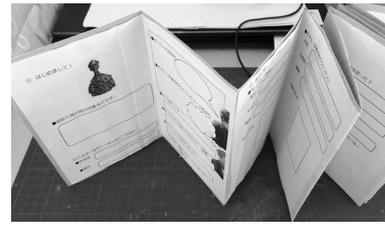
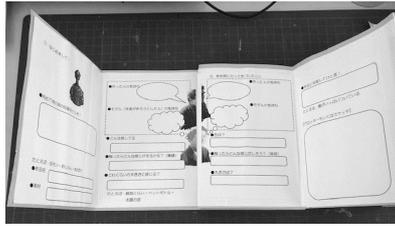
### 【註釈】

#### ※0について

生徒たちは自分の知っている知識に関する内容のものであれば、比較的抵抗感無く授業に取り組める。このことから授業でいきなり題材を提示するのではなく、普段の学校生活の中に題材のヒントを掲示するなどの工夫を行う。

#### ※ワークブックについて

ワークシートは冊子にして活用する。そうすることによって自分の思いや、考え方の変化を見比べやすくなる。



#### ※映像作品について

作者（ジャコモメッティ）、モデル（矢内原）、作品《ヤナイハラ1》の3者の関係性を知ることによって作品の持つ良さをより深めることができる。史実に基づき、生徒たちが理解しやすいようにペープサートを用いて3者の関係性をわかりやすく映像作品にする。

#### ※美術館事前学習について

美術館の基本的なマナーやルールについて事前学習を行うことで、実際に美術館へ行った際に生徒が落ち着いて作品鑑賞に取り組むことが期待できる。また、美術館の場所や、交通手段、入館料などを自分たちで主体的に調べることで美術館へ行くことに目的意識を持つことができる。将来的には、社会参加の一つとして、行動範囲の中に美術館を組み込むことを目的とする。

指導案作成：安慶田渉・太田雄哉・高地めぐみ・川口美芳